



宮の内2の交差点

coffee time

筋違い

道路のつけかたで、外敵侵入の際の市街戦を想定して考え出された「五の字型」の道路であった。道は一応四方に通じているが、見通しを妨げるために食い違いを設けたり、丁字路や鍵曲がりをつくる。場合によっては袋小路もつくり、これらを利用して敵を迎え撃つ。道も広くはない。幹線道路でもせいぜい7~8mどまりとし、大軍の襲撃を阻むのである。

coffee time

旅籠屋・茶屋稼業と宿のにぎわい

江戸時代旅人の休泊を目的とした施設を旅籠屋といった。飯盛女という給仕をおいた旅籠屋を飯盛旅籠屋といい、飯盛女をおかない旅籠屋を平旅籠屋といった。雀宮宿の平旅籠屋や飯盛旅籠屋の規模の大きいものが11軒、中程度の飯盛旅籠屋が17軒、木賃宿など小規模旅籠屋が10軒あった。雀宮宿は宿場が繁栄していたので旅籠屋稼業が盛んだった。茶屋とは旅人が休息し、昼食をとったり、名物を食べたりするところで、宿の上・下端に、また木戸の外などにあった。当時、雀宮宿にも4~5軒あった。『諸国道中商人鏡(あきんどかがみ)』には、即席料理、お茶漬け、京菓子おこし、また肥料の干鰯(ほしか)、水油、高根沢の宇津救命丸の取次の家もあった。



雀宮仮本陣跡

仮本陣跡
江戸時代の建物が残る芦谷家は名主・問屋であると同時に、本陣・脇本陣だけではまかないきれない場合の仮本陣の役割を担っていた。明治14年(1881)の明治天皇の奥州巡幸の際は、小休所として利用されていた。門構えと黒い板間に、往事の面影が残っています。

正光寺(しょうこうじ)
石田感応寺の末寺で天台宗に属し、ご本尊は2尺5寸の阿弥陀如来である。開基は正徳5年(1715)と伝えられる。現在の伽藍は昭和44年に地元檀家・篤志家による再建である。「犬通山地福院と号す」(日光道中略記)と記されている。



安塚街道入口交差点

安塚街道入口
左折すると安塚街道である。下都賀郡壬生町の南犬飼地区(旧南犬飼村)と、宇都宮市の雀宮地区(旧雀宮町)を東西に結ぶ道路。東武鉄道宇都宮線の安塚駅、おもちゃのまち、独協医大がある

この道は、塚山古墳・西古墳・南古墳、日光・東北道、東武鉄道西川田駅、とちの木ファミリーランドへ行くことができる。

coffee time

塚山古墳

全長98mの前方後円墳、その隣には、塚山西古墳、塚山南古墳がある。いずれも県指定史跡。5世紀後半から6世紀初頭に築かれたものと考えられている。現在、塚山古墳は整備され公園になっていて、春は古墳に植えられたツツジが花をつける。

栃木県
宇都宮市

旧日光街道
雀宮神社を過ぎると、旧日光街道は国道4号線の西側に分かれていく。幅2mに満たない狭小な道路で、国道4号の西約20~30mのところを通過している。「旧街道」と呼ばれている。

国分寺まで13km
氏家まで26km

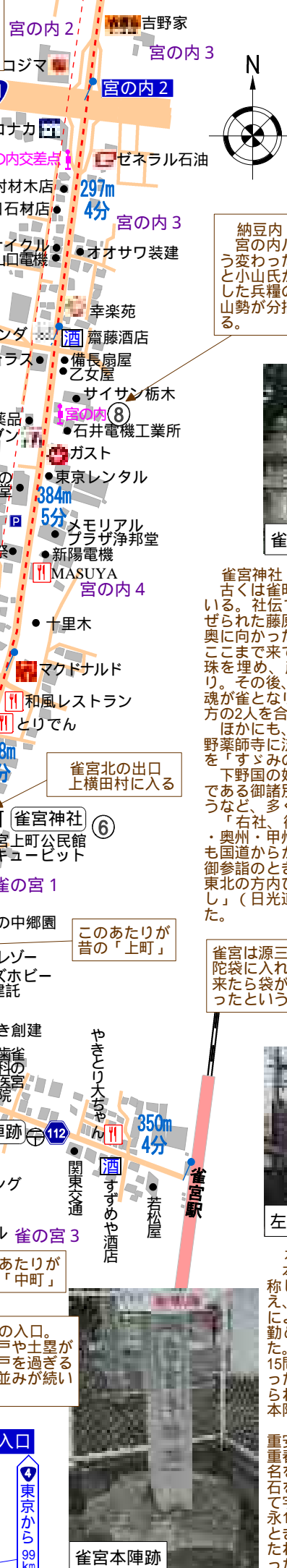
東京から100km

足利銀行
83m
1分

正光寺
413m
5分

安塚街道入口
182m
2分

東京から99km



54 雀宮宿 ~ 宇都宮宿

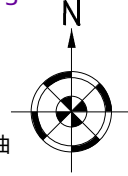
栃木県宇都宮市

雀宮 ~ 宮の内

(歩行距離 1820m 22分)

歩く地図でたどる日光街道

http://nikko-kaido.jp/
JZE00512@nifty.ne.jp



納豆内
宮の内バス停付近は、かつて「納豆内」という変わった名前が付けられていた。昔、宇都宮氏と小山氏が戦い、宇都宮勢が敗走するときに残した兵糧の大豆が納豆になっていて、これを小山勢が分捕ったり食べたという伝承が残っている。



雀宮神社

雀宮神社
古くは雀明神といい、多くの言い伝えが残っている。社伝では、長徳元(995)、陸奥の守に任ぜられた藤原実方が赴任の途中、ここで休息し陸奥に向かった。妻の綾女も、その実方を追うが、ここまで来て病死する。その遺言で持っていた宝珠を埋め、産土神として祀ったのが神社の始まり。その後、実方も赴任地の陸奥で死に、その靈魂が雀となりこの地に飛来した。そこで綾女と実方の2人を合祀し雀宮神社と称したという。ほかに、雀が村人を救ったという伝説や、下野薬師寺に流された道鏡が納涼のためつくった亭を「すゞみの宮」としたのが転化したという。下野国の始祖、崇神天皇の皇子豊城入彦命の流である御諸別王を祀って「鎮の宮」と呼んだというなど、多くの話が伝わっています。「右社、往還より拾六間程引込有之」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)とあるように、今も国道からかなり奥に本殿がある。また、「日光御参詣のとき当社右の方、御小休所となる。此地東北の方内ひらけ、筑波山・加波山など眺望すべし」(日光道中略記)とあり当時は眺めがよかった。

雀宮は源三位頼政の家来猪早太が主君の首を頭陀袋に入れて諸国を歩いていたのだが、ここに来たら袋が重くて上がらない。それでここに祭ったという。(西遊草)



左西松屋手前に雀宮本陣跡

本陣跡
本陣・小倉家の先祖は、阿波守守信と称し、天正年間(1573頃)宇都宮家に仕え、真岡城主にもなったが、宇都宮没落により雀宮に土着し、代々名主・本陣を勤めた。表門は埼玉県和光市に移築した。敷地は間口15間(約27m)、奥行き15間あり、建坪は115坪余(約380m²)あったといわれる。現在跡地に標柱が建てられている。五海道中細見独案内に「御本陣小倉半右衛門」とある。「先祖を阿波守守信と称し、其子民部重安、宇都宮家に仕仕。其後、長左衛門重春のとき宇都宮広綱の女を配偶せし。名を綱春と改め野州芳賀郡玄岡の城式万石を領せしといふ。其子彦岐守にいたりて宇都宮没落せしは当所に土着し、寛永18年(1641)没す。...其子半右衛門のときより名主を勤め、子孫引続き今にいたり」(日光道中略記)とある名家だった。